

平成25年度病虫害発生予察予報第3号(6月)

平成25年6月4日
高知県病虫害防除所

(予報の概要)

作物名	病虫害名	予想発生量
水稲(早期稲)	いもち病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ イネゾウムシ イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	並 並 並 少 少 少 やや多
水稲(普通期稲)	いもち病 籾枯細菌病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ イネゾウムシ イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	少 少 並 並 並 少 少 並
カンキツ	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ アブラムシ類 ミカンハモグリガ カメムシ類	やや多～多 やや多 やや少 並 やや少 並 少

気象予報(高松地方気象台5月31日発表)

< 予想される向こう1か月の天候 > 6月 1日から6月30日まで

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は高い確率50%です。2週目は平年並または高い確率ともに40%です。

期 間	要 素	予報対象 地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多い)
1か月	気 温	四国地方	20	40	40
	降 水 量		20	40	40
	日照時間		40	40	20
1週目	気 温	四国地方	10	40	50
2週目			20	40	40
3～4週目			30	40	30

< 予報の対象期間 >

- 1か月 : 6月 1日(土) ~ 6月 30日(月)
- 1週目 : 6月 1日(土) ~ 6月 7日(金)
- 2週目 : 6月 9日(土) ~ 6月 14日(金)
- 3～4週目 : 6月16日(土) ~ 6月 28日(金)

病虫害発生予想

1. 水稻(早期稲)の病虫害

1) いもち病

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: 並
根 拠

- (1) 5月27日に平年より9日早く梅雨入りしたため、プラスタムによる感染好適日が各地で散見されているが、予察田や巡回調査では葉いもちを確認されていない。また現地からの発生の情報も寄せられていない。
- (2) 向こう1か月の気象予報によると、曇りや雨の日が多く、日照時間が少ないと見込まれることから、本病の発生に注意が必要である。しかし、現在の発生状況や苗箱施用剤による防除対策から考えて、発生はあるが急激な増加の恐れは少ないと思われる。

対 策

- (1) 今後の気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら、速やかに薬剤散布を行う。また上位葉の発病が多いときは、穂いもち対策として出穂前に薬剤散布を行う。なお散布時には周辺作物への飛散防止に留意する。
- (2) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: 並
根 拠

- (1) 現在、県西部で発生が見られる。
- (2) 今後の気象予報からは大きな増加はなく、平年並で推移すると思われる。

対 策

- (1) 近年、萎縮病の発生はほとんどなく、低密度時は薬剤散布は必要ないが、出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪化することがあるので、その場合は周辺作物への飛散防止に努めながら、他の病害虫とあわせて防除を行う。

3) セジロウンカ

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: 並

根 拠

- (1) 現在、予察灯への飛来は確認されていおらず、巡回調査でも確認されていない。
- (2) 5月下旬に九州、中国地方などへ初飛来が確認されている。

対 策

- (1) 異常飛来等で、成虫数が株当たり5頭以上になったときは、周辺作物への飛散防止に努めながら薬剤防除を行う。

4) ヒメトビウンカ

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: 並

根 拠

- (1) 現在、予察灯および巡回調査でも確認されていない。

対 策

- (1) 近年、縞葉枯病はほとんど発生していないため本虫を対象にした薬剤散布の必要性は低いが、発生が多い場合は周辺作物への飛散防止に努めながら他の病害虫と同時防除を行う。

2. 水稻(普通期稲)の病害虫

1) いもち病

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: 並

根 拠

- (1) 現在、特に問題になるような発生の情報はない。
- (2) 向こう1か月の気象予報は発病好適条件にあるが、現在の発生状況や箱施用剤等による防除から考えて、急激な発生の増加はないと思われる。

対 策

- (1) 感染源になりやすい補植用苗や余り苗を水田やその周辺に放置しない。
- (2) 箱施用剤を散布していない場合、初発を認めたら蔓延する前に周辺作物への飛散防止に努めながら早めに薬剤散布を行う。
- (3) 窒素過多を避け、適正な肥培管理を行なう。

2) イネミズゾウムシ

予 想 発生時期: 平年並 / 発生量: 少

根 拠

- (1) 早期稲での巡回調査では、食害痕は見られるものの成虫の寄生数は少なく、発生が多いという情報もないことから、普通期稲においても平年に比べ発生は少ないと予想される。

対 策

- (1) 本虫は定植後2週間くらいが加害のピークであることから、育苗箱での防除を行っていないほ場で発生が多い場合は注意する。

3. カンキツの病害虫

1) そうか病

予 想 発生時期: 並 / 発生量: やや多 ~ 多

根 拠

- (1) 5月の巡回調査では温州みかん、東部、中西部の中晩柑類で平年より発生が多い。
- (2) 今後の気象予報では、降水量は多いと予想されており、やや増加傾向で推移すると考えられる。

対策

- (1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根拠

- (1) 現在、温州みかん、中晩柑類ともに平年並の発生である。
- (2) 今後の気象予報では、降水量は多いと予想されており、やや増加傾向で推移すると考えられる。

対策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを越すようであれば、薬剤散布を行う。薬剤防除の際は周辺作物への飛散防止に努める。

3) かいよう病

予想 発生時期:並 / 発生量:やや少

根拠

- (1) 現在、温州みかんの中晩柑類ともに、少発生となっている。
- (2) 今後の気象予報から降水量は多く、温度も高いことが予想され、現在の発生状況から考えると、発生はやや増加傾向で推移と思われる。

対策

- (1) 梅雨時には銅剤等により予防に努め、薬剤防除の際は周辺作物への飛散防止に努める。
- (2) 発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) カメムシ類

予想 発生時期:並 / 発生量:少

根拠

- (1) 巡回では発生確認していないが、フェロモントラップでは県全域で発生は少ない。
- (2) 向こう1か月の気象予報では降雨量は多い見込みで、果樹園への飛び込みは少なく、大きな増加はない見込みである。

対策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、園内をよく観察して、飛来を確認したら周辺作物への飛散防止に努めながら早めに防除する。

県民の皆様に提供する農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. 病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）：<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報

病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報

病虫害発生状況速報(ハスモンヨトウ、アブラムシ、果樹カメムシ etc.)

2. こうち農業ネットサービス 当方で提供する情報の閲覧は無料です（通信料は別途必要となります）。

・携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）

➢ <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/> (Iモード)

➢ トップメニュー 地域情報 タウンガイド・行政 高知県庁メニュー 農業情報：(ezweb)

➢ 四国メニュー タウン情報・行政 高知県庁メニュー 農業情報：(77-)

病虫害発生予察情報（概要）